

# 病害虫発生予察注意報第 2 号

平成 25 年 7 月 17 日

三重県病害虫防除所

1. 対象作物: 水稻
2. 対象病害虫名: 斑点米カメムシ類
3. 発生地域: 全域
4. 発生時期: 7 月中旬～8 月中旬
5. 発生量: 多い
6. 注意報発令の根拠

(1) 巡回調査(7 月第 2 週)における、出穂期の圃場内および畦畔イネ科雑草の 20 回振りによる、すくい取り調査の結果、中型種(ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ類の合計)の発生地点率は 36.9% (平成 33.2%)、成虫数は 1.6 頭(平成 1.3 頭)と、平成よりも多い状況です(表)。特にクモヘリカメムシは、平成より早い時期から圃場内および圃場周辺への飛来が確認されており、注意が必要です。

(2) 上記調査における、微小種のアカスジカスミカメの発生地点率は 40.0% (平成 20.7%)、成虫数は 4.0 頭 (平成 2.6 頭)と、北勢地域を中心に多い状況でした(表)。

表 圃場(出穂期)および畦畔イネ科雑草における、斑点米カメムシ類の発生状況(20回振りすくい取り・2013年7月巡回調査結果)

県全体 平均	調査 地点数	中型種								微小種	
		合計		ホソハリカメムシ		クモヘリカメムシ		シラホシカメムシ類		アカスジカスミカメ	
		発生 地点率(%)	虫数								
県全体	160	36.9	1.6	30.0	0.8	8.8	0.6	15.6	0.3	40.0	4.0
平成値	—	33.2	1.3	25.2	0.6	6.0	0.5	10.6	0.2	20.7	2.6
発生量(平成比)		多い		多い		多い		多い		多い	

(3) 普及指導員によると、イネカメムシが昨年多発した地域において、今年も発生が確認されています。

(4) 1か月予報(7月12日・名古屋地方気象台発表)によると、平成に比べ晴れの日が多く、降水量は平成並か少ない予想です。また気温は平成並か高い予想であり、斑点米カメムシ類の加害活動や増殖に好適な気象条件が続くと見込まれます。

## 7. 防除上の注意事項

(1) 昨年は斑点米カメムシ類が県内全域で多発しました。特に山沿いの地域や、作期の遅い圃場においては、斑点米による等級落ちが顕著でした。発生状況に注意してください。

(2) 薬剤防除は穂揃い期に実施しましょう。斑点米カメムシ類は移動性が高いため、広域での一斉防除が効果的です。

(3) 防除後も水田への侵入が確認される場合は、穂揃い期防除の 7～10 日後に追加防除を実施してください。水田内での増殖を防ぎましょう。

(4) 周囲よりも出穂の早い水田では、被害が集中するので防除を徹底しましょう。

(5) 出穂直前および出穂後の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田内へ追い込み、加害を助長するので避けましょう。やむを得ず出穂後に草刈りを行う場合は、水田の薬剤防除に合わせて実施しましょう。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。